

# 超急速ガラス化保存した牛性判別胚による子牛生産

畜産試験場

## 【研究のねらい】

通常の凍結方法では生存性が低い性判別胚をクライオトップで保存し、現場で融解し、そのまま受胚牛に移植できる手法による受胎性を検討します。

## 【研究の成果】

LAMP法で性判別した胚(図1)をクライオトップで超急速ガラス化保存したのち、移植現場で実施可能な「ストロー内融解・直接移植法」で借り腹の雌牛に移植したところ、10頭中3頭(30%)が受胎し、それらから判定どおりの性別の子ウシ(3頭)が誕生しました(表1)。

## 【成果の活用面・留意点】

今後はこの手法を基本に、現場でも扱いやすい融解手法の開発を進めていく必要があります。

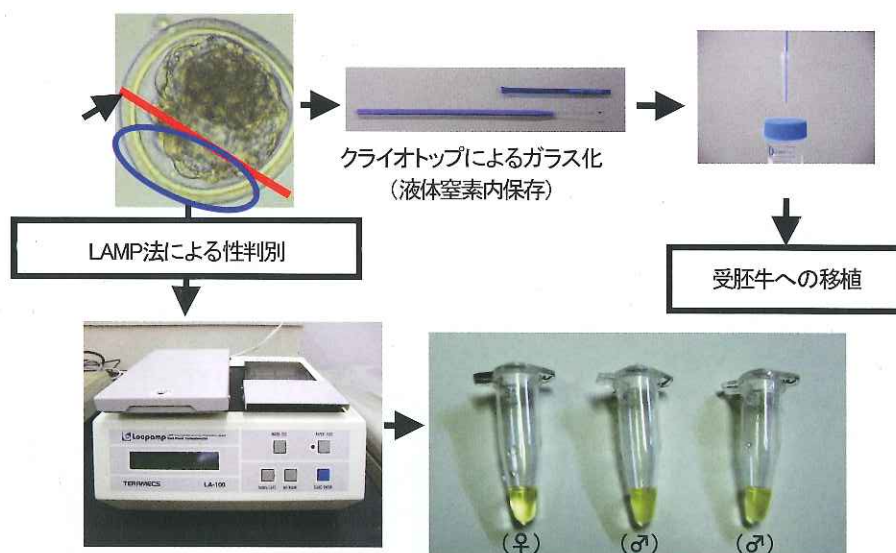


図1 牛胚の性判別および超急速ガラス化胚の移植

表1 ストロー内融解・直接移植法による牛性判別胚の移植成績

移植頭数	受胎頭数 (%)	流産頭数	分娩頭数
10	3 (30)	0	3

(問い合わせ先 TEL : 0739-55-2430)